

日刊県民福井 掲載記事 平成25年 12月 5日

薬は時間・量・方法守る

薬には、医療機関向け（医療用医薬品）と一般消費者向け（一般用医薬品）があります。

医療用医薬品は、医師の診断を受けた上で、医療機関の窓口でもらうか、医師が発行した処方せんを薬局に持っていき買つことができます。薬局では処方せんに書かれた医薬品について問題がないかを確認した後で、調剤してお客さまにお渡ししています。

薬局では調剤した履歴を記録保管することが法律で義務付けられています。そのため、複数の医療機関で処方せんを発行された場合でも、同じ薬局であれば過去の調剤履歴と照らし合わせ、問題がないかを容易に確認することができます。

このように同じ薬局を使うことにより薬の内容をチェックしやすくなり、同じ薬がある場合や調剤された薬がすでに手元にある場合には減らすことができますし、飲み合わせによる健康

いまいき ライフ

薬の服用時間

食前：食事の20～30分前

食後：食事の20～30分後

食間：食事の約2時間後



安全な買い方、使い方

被害を防止するという利点があります。最寄りの薬局・薬店・ドラッグストアを「かかりつけ薬局」として利用してみてもいいでしょう。

一方、一般用医薬品は薬を買うことができますが、安易に使うと重篤な副作用が發生するなどの健康被害が發生する場合があります。少

また、現在、一般用医薬

薬との相性が良くない食べ物例

- ① 薬の効き目が弱くなる
- ② 薬の効き目が強くなる



納豆：ワーファリン①
(血液を固まりにくくする薬)



牛乳：抗生物質、胃薬の一部①



グレープフルーツ：薬の大半①②

薬局を「かかりつけ」に

品を便利に買つことができると、安全面を考慮に入れたルール作りを国が行っており、今後法律の改正が予定されています。薬の使い方は医療用医薬品であれば薬をもらうときに医師・薬剤師からの口頭または書面での説明があるので、その通りに時間・量・方法をきちんと守って使いましょう。一般用医薬品の場合には容器包装および添付文書に書かれているので、すぐに捨てないでよく読んでから使いましょう。薬を飲むときには、コップ一杯の水または白湯で飲みましょう。薬の中には日ごろ口にする食べ物との相性が良くないものがあります。また、小さなお子さんのおられる家庭では、薬を飲むところをお子さんに見られないようにしましょう。お子さんは薬をお菓子と勘違いして口にしてしまう事故が起きる恐れがあります。

薬を使って疑問に感じたこと、体の調子が逆に悪くなった場合などは医師・薬剤師に相談ください。

(県医薬食品・衛生課)